



お知らせ

## 厚生労働省 令和2年度女性医療職等の働き方支援事業に採択されました

女性医療人キャリア支援センターは厚生労働省 令和2年度女性医療職等の働き方支援事業に採択されました。その活動内容について「実施報告書」を3月に作成いたしました。

この事業は近年の状況を踏まえ、女性医療職等がキャリアと家庭を両立できるような取り組みを構築する機関を選定し、普及推進可能な効果的支援モデルを構築し、女性医療職等のキャリア支援の充実を図ることを目的としたものです。令和2年度は5機関が採択されました。本学は平成30年度に続き、2回目の採択となりました。

実施した取り組みについては、女性医療人キャリア支援センターホームページ内でも紹介しております。

令和2年度 厚労省事業実施報告書



ホームページでも取り組みを紹介

## 令和2年度版 大分県医師キャリアサポートブックを作成しました

令和2年度版大分県医師キャリアサポートブックを発行いたしました。

このサポートブックは、令和2年度厚生労働省事業の一環として、県下の医療機関の女性医師支援についてまとめたものです。地域医療での医師の働き方改革推進のための啓発活動、県外からの医師の誘致、女性医師支援、学生のキャリア支援等に役立てることを目的に令和元年度に初版を発行いたしました。

今回さらなる充実化を図るため、県内50の医療機関と附属病院18の診療科の協力をいただき、改訂版を作成いたしました。



ご協力いただいた医療機関



このような情報が掲載されております



冊子をご希望の方は、女性医療人キャリア支援センターまでお問い合わせください。

## 女性医師交流会 2月9日(火)

毎年、対面で行われている女性医師交流会ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響からZoomでの開催となりました。

研修医2名を含む女性医師が参加し、自宅や学内などそれぞれの場所から女性医師のキャリアについて「進路の決め手」「留学のメリット」「妊娠中・子育て中の働き方」をテーマにトークが展開されました。



今回の最年少参加者(0歳)

学内から、自宅から等  
思い思いの場所から参加されました



## 男性医療人パパの会Penguins 2月21日(日)

男性医療人有志が集まり、男性の育児参加や育休取得などのテーマで座談会形式で交流を深めている「男性医療人パパの会Penguins」。

第6回は『オンライン料理教室&ノンテクニカルスキルミニ講座』。料理と医療安全のコラボレーション企画で開催されました。学内・学外から医療職、事務職、学生と幅広い申し込みがありました。開催が日曜の午後という事もあり、自宅から親子や夫婦で参加する姿もありました。

松浦センター長の挨拶に続き、パパの会発起人である中田副センター長のミニ講座が行われました。医療事故を無くするための大切な要素であるノンテクニカルスキル。医療現場におけるコミュニケーションやチームワークの重要性について、動画やスライドを用いてわかりやすく話がありました。

続いて、前回のパパの会での講演が好評だったパパ料理研究家・滝村雅晴氏による「オンライン料理教室」が行われました。メニューは「レストランのオムライスとオーロラソースがけサラダ」です。料理教室参加者は滝村氏と軽快なトークを交えながら食材の切り方やオムライスづくりのコツなどを教わり、オムライスとサラダを完成させました。料理教室の前に学んだノンテクニカルスキルを活かし、家族で役割を分担し、確認し協力している姿がありました。料理と医療安全、一見無関係と思われる組み合わせですが、共通の部分もあることがわかりました。

オンライン料理教室  
講師の滝村 雅晴氏と  
アシスタント?の  
マリさん



滝村氏によるオムライスの実演

男性医療人パパの会 Penguins  
オリジナルバッジができました!



パパの会に参加された方に  
メンギンズオリジナルバッ  
ジ+グッズをプレゼントし  
ました。  
(親子のメンギンは、セン  
ター長作成のイラストです)



中田副センター長のミニ講座の様子です



出来上がったオムライスを持って「はいポーズ!!」

## リーダー研修会 3月4日(木)

3月4日の教授会にて、教授会構成員を対象にリーダー研修会をオンラインにて開催しました。講師の熊本大学病院 地域医療支援センターの後藤 理英子先生は2019年に、愛媛県西予市、日本医師会、愛媛県医師会が主催する第8回西予市おイネ賞にて全国奨励賞を受賞された新進気鋭の女性医師です。

「女性医師のキャリア継続・構築に対する上司の理解度の重要性」をテーマに、医師の離職抑制、復職支援、男女共同参画について熊本大学病院の取組における成果とそこで発生した課題についてデータとともに提示されました。その上で、組織的キャリア発達には挑戦的な仕事を成し遂げた「心理的な成功体験」が必要であり、そのために内発的欲求とそれに対応する挑戦的な仕事が与えられること、心理的安全性を担保できる実力者（上司）が直接的に昇進を支援し、能力や実績を保證することが大切であると話されました。また今後、男女に関わらず全員に関わる問題として家族介護を挙げられました。

※西予市おイネ賞は、日本最初の産科女医・楠本イネの功績を顕彰し、その志を継ぎ女性医師の奨励を目的として平成24年創設されました。

楠本イネはドイツ人医師シーボルトの娘で、西予市で少女期を過ごし、医師を志しました。



熊本大学病院  
地域医療支援センター  
後藤 理英子先生

熊本からオンラインで講演いただきました



## キャリアパス相談会 3月16日(火)

3月16日に医学部5年次の女子学生と女性医師との交流会「キャリアパス相談会」が開催されました。今回はZoom開催となり、女性医師14名と学生15名が参加しました。

学生から先輩医師に聞きたいことを事前に募り、寄せられた子育てやキャリアなど将来に向けた質問について、先輩医師に一つ一つ丁寧に答えていただきました。

また子育て中のママさん医師にはちょうど仕事モードから家庭モードへの切り替えの時間帯に行われたこともあり、時折、画面に可愛い子供さんの姿が映ることもありました。数年後の自分の姿をイメージした学生もいるのではないのでしょうか。

参加した学生からは「普段はなかなか聞けないお話も多く大変勉強になりました。今ちょうど研修先や将来の希望科など悩んでいる最中なので、今回のお話を踏まえて将来のことを考えたいと思います。」「将来についていろいろと不安があったのですが、今回多くの先生のお話を聞くことで、キャリアに正解はなくて働き始めたらきっと何とかやっていけるのだなと思えた。今回参加させていただいて良かったです。先生方の貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。」等の感想をいただきました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、イベント、セミナーはオンライン開催となりました。

オンラインでの開催は参加者の状況に合わせて参加ができるため概ね好評でした。その一方で、やはり対面の方が良いという声も聞かれました。今後のイベント、セミナーについては対面 + オンラインのハイブリッド形式なども検討したいと思います。

### 学生から事前に寄せられた質問 (抜粋)

- ・子供を産むタイミング、出産後仕事に復帰するタイミング、保育園に預けるタイミングについて
- ・専門医を取るタイミングなど、こうしておけばよかったという事は?
- ・出産、育児の時期にどれだけ職場を離れることができるか?
- ・出産・育児でキャリア形成に影響の出やすい科は?
- ・親の助けなしでも子育ては可能か?
- ・配属先の病院はどの程度希望を出せるのか?
- ・留学は可能か、いつ頃が適切か?
- ・先輩にアドバイスとして、これをしておいた方がよかったことなどは?



話が盛り上がりあっという間に時間が過ぎました

医学部附属病院で働く男性医療人で、育休を取得された方のインタビューをお届けします。  
今回は看護部・7階新病棟に勤務する中野 真弥さんにお話を伺いました。

#### <育休を取得したきっかけは？>

育休制度は他の部署の男性看護師が取得したことがあると聞いていたので、知っていました。産後、母体が回復する前の手助けが必要な時期を考えていて、あえてその時期を選びました。

#### 中野 真弥さん (看護部・7階新病棟)

昨年12月に第1子(男の子)誕生  
今年1月4日～8日まで育休を取得



#### <家族や職場の反応・理解は？>

家族からは「ほかの企業では取れないところもあるので、育休制度があるのはいいね」妻からは「できるだけいてくれた方が精神的・身体的にもきつい時期なので助かる。家族のサポートはあるとはいえ、手助けしてくれる人が多いほど助かる。」と言われました。職場では、「権利としてあるのだから取得するのは構わない。病気の時などの『お互い様精神』のように、今回中野さんが取得することで、次の人が取得しやすくなれば」との言葉もあり、取得するに至りました。引き継ぎや申し送りも普段からパートナーシップ制で情報共有していることもあり、スムーズに進めることができました。

#### <育休を取得して気付いたことは？>

子どもの世話をすることでより愛着が強くなりました。仕事上、産前産後の人の姿を見ることはあっても、家に帰ってからの姿を想像できていませんでした。実際に、体調が戻らないまま、まだ不安定な新生児に対応している妻の様子を見て、「これは大変だ」と実感しました。核家族化が進み、奥さんだけで面倒を見るのは絶対に無理だと思います。妻も「30分だけでも預かってもらうことで休まる時間ができる」と言っていたので。

#### <第2子の時も育休を取りますか？> (即答) もちろん取ります!

#### <育休取得後、変わったことは？>

仕事に対して縛られず、周りを頼って協力を仰いでいいのではないかなと思うようになりました。仕事ばかりになってくると、家庭のことがうまくいけなくなり、そのうち仕事も悪い方向に行ってしまうことがあるのではないかと。そのバランスは大事だと思います。自分のことがうまくいってれば、仕事も気持ちよく望めるかな、と。今回育休を取得して実感しました。この時期に子供に関わることができることは重要だと思うので、今後育休を取ろうと思う人がいたら、お勧めする立場でたいです。

#### 男性の育児休業について

平成29年4月より男性職員の育児休業取得に関し、5日まで有給となりました。詳しくは本センターまでお問い合わせください。  
女性医療人キャリア支援センター TEL: 097-586-5715 または 内線 5715 E-mail: carsupport@oita-u.ac.jp

#### 妊娠中の女性医療人の方へ

### マタニティ白衣・スクラブ&パンツの貸出サービスを行っています

女性医療人キャリア支援センターでは、出産前の女性医療職の方に向けたマタニティ用白衣、スクラブとパンツの無料貸出サービスを行っています。妊娠初期から臨月まで対応しています。

お申込み・お問い合わせは、  
女性医療人キャリア支援センターまで。  
事前に試着も可能です。  
お気軽にご連絡ください。



マタニティ白衣

お腹が目立たないデザインです。産休前の大きなお腹でもボタンが留められます!!

軽いストレッチ素材のスクラブとジョガーパンツは、お腹への負担が少なく、快適に着用できます。



スクラブ&パンツ